

アジア太平洋研究所フォーラム「インドネシアの展望～政治・経済の視点から～」(2024年11月7日)

プラボウォ政権下での政治を展望する ——新内閣の陣容と政権公約——

川村 晃一

(ジェトロ・アジア経済研究所 在ジャカルタ海外調査員／インドネシア国家研究イノベーション庁BRIN客員研究員)



(写真)議会での就任式を終えて大統領官邸に向かうプラボウォ新大統領と迎える沿道の市民。2024年10月20日、ジャカルタ、講演者撮影。

講演の内容

10月21日に発足した新内閣の特徴からプラボウォ新政権の政策と方向性を考えます。

1. 概観：プラボウォ=ギブラン新政権の誕生
2. 内閣の概要
3. 閣僚の内訳(出身組織別)から見てくる新内閣の特徴
4. プラボウォ新政権の政治運営はどうか？
5. プラボウォ新政権にジョコウィ前大統領の影響は残るか？
6. プラボウォ新政権の経済運営はどうか？
7. プラボウォ新政権の外交政策はどうか？
8. プラボウォ政権を展望する

プラボウォ=ギブラン新政権の誕生

■ 大統領選挙(2月14日)

- 3組による選挙戦を得票率59%で圧勝
- 勝因は①ジョコウィ効果(ジョコウィ路線の継承)と②若者世代からの支持(かわいいイメージ)

■ 長い政権移行期間

- ジョコウィとの協力によるスムーズな政権移行→2025年度予算策定での協力
- 安定した政権運営のための環境作り
 - 4政党の少数連立与党→6政党の巨大連立与党を形成、国会議席の7割確保
 - 法律改正による大統領権限の強化→設置できる省庁・顧問ポストの制限撤廃により大連立与党内での利権配分が可能に

■ 正副大統領の就任(10月20日)

■ 「紅白内閣」の発足(10月21日)



(写真)国家官房ウェブサイトより。

■ プラボウォ・スビアント

- 1951年生まれ(73歳)、父親は著名経済学者、陸軍戦略予備軍司令官・特殊部隊司令官、グリンドラ党党首
- スハルトの娘婿としてスハルト後の大統領の座を狙う。地方の独立運動や民主化運動弾圧の疑惑あり。2024年大統領選では「強い指導者」像から「好々爺」にイメージ転換。

■ ギブラン・ラカブミン・ラカ

- 1987年生まれ(37歳)、中ジャワ州出身、ソロ市長、ジョコウィ大統領の長男
- 年齢の立候補要件を満たさなかったが憲法裁(長官がジョコウィの義弟)の決定により土壇場で立候補が可能になった曰く付き。

「紅白内閣」の概要

■ 巨大化した「肥満内閣」

- 省庁の数が大幅に増加：34省→48省
- 大臣級政府高官5人、副大臣56人(大臣・副大臣の一覧はこちら)
- 大統領特別顧問6人、大統領特使7人、大統領特別スタッフ1人、大統領直属政府機関長官6人、副長官6人、内閣官房長官(顧問の一覧はこちら)
- 政権発足後の政治任用は136人に



■ 新設省庁：1調整相府、2省、5庁

食料担当調整相府、人口・家族開発省、インドネシア海外労働者保護省、開発監督・特別捜査庁、ダヤ・アナガタ・ヌサンタラ投資管理庁、巡礼実行庁、貧困脱出加速化庁

■ 省庁分割：2調整相府、7省

政治・法務・治安担当調整相府→政治・治安担当調整相府、法務・人権・入国管理・刑事施設担当調整相府、人間開発・文化担当調整相府→人間開発・文化担当調整相、社会エンパワーメント担当調整相府、法務人権省→法務省、人権省、入国管理・刑事施設省、観光・創造経済省→観光省、創造経済省、教育文化研究技術省→初等・中央教育省、高等教育・科学技術省、文化省、公共事業・国民住宅省→公共事業省、住宅・居住地域省、村落・後進地域開発・移住省→村落・後進地域開発省、移住省、協同組合・中小企業→協同組合省、中小零細企業省、環境・林業省→環境省、林業省

■ 名称変更：1調整相府、2省

海洋・投資担当調整相府→インフラ・地域開発担当調整相府、通信情報省→通信デジタル省、投資省→投資・川下化省

閣僚の内訳

出身組織	大臣	副大臣	その他
グリンドラ党	6	9	5
ゴルカル党	9	3	2
民族覚醒党	3	1	0
福祉正義党	1	0	0
民主主義者党	4	1	0
国民信託党	2	2	1
連帯党	1	2	0
月星党	1	0	1
グロラ党	0	2	0
その他	0	3	2
合計	27	23	11

出身組織	大臣	副大臣	その他
国軍	3	3	3
警察	3	2	0
民間(実業家・経済界)	7	3	1
民間(宗教界)	3	6	2
民間(学界)	4	6	4
民間(その他)	2	6	4
官僚	4	7	2
合計	26	33	16

- 国軍・警察出身者はプラボウォと関係深い
- 民間出身者もプラボウォと関係のある人物多数
- プラボウォ=ギブラン/サンディ選対メンバーの多さ→論功行賞人事
- 純粋な“専門家”は多く見積もって大臣8人、副大臣20人、その他9人

(出所)各種報道・資料より講演者作成。

プラボウォ政権は強権的になるか？

■ 目立つ国軍出身者

■ 純粋な軍出身者9人

国防相、国家情報庁長官、大統領首席補佐官、国家官房副長官、国防副大臣、海洋・漁業副大臣、政治・治安担当大統領特別顧問、国防担当大統領特別顧問/防衛産業政策委員会委員長、内閣官房長

■ 隠れ軍出身者(政治家などに転身)8人

外務相、インフラ・地域開発担当調整相、移住相、農地・空間計画相、政治・治安担当調整副大臣、国家経済評議会議長/行政デジタル化・技術担当大統領特別顧問、開発監督・特別捜査庁長官、国家栄養庁副長官

■ 軍隊式の政権統率

- 政権発足前後の合同研修・合宿をプラボウォ私邸&国軍士官学校で実施→閣内の規律、忠誠心、協力を強調

■ 政権発足前の政治工作

- 総与党化の試み、大統領権限強化に向けた法改正

■ 過去の抹消

- スハルト時代末期の民主化活動家、1998年民主化運動での活動家誘拐事件の被害者ら7人を登用
- 就任演説では「人権」に一言も触れず
- “インドネシア特有の民主主義、礼儀正しい民主主義”に言及
- ユスリル調整相の発言「1998年5月暴動は解決済み」



プラボウオ政権にジョコウィの影響力は残るか？

■ 主要閣僚の多くが留任：13人

財務相、内務相、法務相、経済担当調整相、工業相、エネルギー・鉱業資源相、国営企業相、投資・川下化相、保健相、青年・スポーツ相、社会相、農業相、海洋・漁業相

■ 別ポストで再任：5人

人間開発・文化担当調整相(←国家官房長官)、インフラ・地域開発担当調整相(←農地・空間計画相)、協同組合相(←通信・情報相)、食料担当調整相(←商業相)、国家経済評議会議長(←海洋・投資担当調整相)

■ 副大臣の留任・再任：9人

財務副大臣x2、通信デジタル副大臣x2、法務副大臣、国営企業副大臣、エネルギー・鉱業資源副大臣(←投資副大臣)、保健副大臣、農業副大臣

■ 留任した閣僚≠ジョコウィ派

■ 政党党首/幹部として留任：4人

経済担当調整相、工業相、インフラ・地域開発担当調整相、食料担当調整相

■ 留任を見込んで政権末期に任命：7人

法務相、投資・川下化相、社会相、財務副大臣、通信デジタル副大臣、エネルギー・鉱業資源副大臣、農業副大臣

■ 行政手腕を評価：3人

財務相、国営企業相、保健相

■ ジョコウィの推薦人事：8人

内務相、エネルギー・鉱業資源相、人間開発・文化担当調整相、協同組合相、インドネシア海外労働者保護相、林業相、国営企業副大臣(ギブラン推薦)、労働力副大臣

■ 政権の重要閣僚からは外れている

■ ジョコウィは何を権力基盤とするか？

■ ギブランの役割は？

プラボウオ政権の経済運営はどうか？

■ 注目された財務相人事

- 安定的なマクロ経済運営の要、スハルト時代以来テクノクラートのポスト
- プラボウオの甥トーマス・ジワンドノ財務副大臣、ブディ・グナディ・サディキン保健相などが候補にあがる
- 結果は、**スリ・ムルヤニの留任**
- 大統領経験者(ユドヨノ、ジョコウィ)のアドバイス？市場、国際機関との関係を考慮？
- 財務省から税務総局・関税総局を分離し「**国家歳入庁**」を設立する構想も見送りに

■ 副財務相3人体制に

- トーマス・ジワンドノ副大臣(プラボウオの甥、グリンドラ党財務部長)
- スアハシル・ナザラ(経済学者)
- アンギト・アビマニュ(経済学者)→歳入部門担当？

■ 財務省が大統領直轄に

- 経済担当調整相府の管轄から大統領直轄に
- 財政の素早い対応、効率的な運営が可能？
- 財政政策の政治的独立性が失われる？
- ジョコウィ政権下では国防予算の配分をめぐってスリ財務相とプラボウオ国防相が対立→今後は上下関係に
- Cf. **国家開発企画省**も大統領直轄に(大臣はアグリビジネス専門の学者だが、プラボウオに近い)

■ 政権公約と財政政策のバランス

- 巨額の財政支出を伴う公約→2025年度予算の歳出規模は前年度比8.9%増
- ジョコウィ時代の巨額の政府債務の償還期限→2025~2027年に年間800兆ルピア超
- “**税収の対GDP比23%達成**”(現在は約10%)と**国家歳入庁設置の公約**

プラボウォ政権の外交政策はどうか？

■ 注目された外務相人事

- スハルト政権(1966年)以降外交官が就任してきたポスト
- 近年で非外交官出身外相はアルウィ・シハブ(1999~2001年、アブドゥルラフマン・ワヒド大統領時代)のみ
- 23年ぶりに政党政治家の**スギオノ外相**
- (経歴)米国ノーウィッチ大卒、独コンスタンツ大学院修了、陸軍特殊部隊隊員、国会議員、プラボウォ私設秘書、グリンドラ党副党首代行、大統領就任前のプラボウォ外遊にほぼ同行

■ 政権交代の外交政策へのインパクト

- 10月22~24日、露でのBRICS首脳会議に就任直後のスギオノ外相が出席
- 最終日に**BRICS加盟の意向**を表明
- 2023年首脳会議ではジョコウィ大統領が出席したが、メリットが見いだせないとして加盟は見送り

■ 外交に積極的なプラボウォ大統領

- 大統領就任前に国防相として20カ国を訪問
- 就任演説「自由・積極外交、非同盟の道を選ぶ。いずれの国との軍事同盟にも加わらない。すべての国との友好関係を築く」「**友人千人でも少なすぎる、敵はひとりでも多すぎる**」
- BRICS加盟表明でも「インドネシアの重要な役割は**途上国と先進国の架け橋**となること」
- 伝統の「**自由・積極外交**」、**全方位中立外交**を堅持する
- 経済中心のジョコウィ外交から安全保障も重視する外交へ

■ 政治家外相を補う人事

- **3人の外務副大臣**：政治家1人(アニス・マツタ・グロラ党党首→イスラーム外交を担当?)と外交官2人(欧州駐在・国際機関・国際法→アジア外交が弱い?)
- **国家開発企画副大臣**：外交官(国際機関・多国間協力)
- **国際貿易・多国間協力担当大統領特使**：学者

プラボウォ政権の展望

■ モノからヒトへの投資へ

- ジョコウィ政権の継承：産業の川下化、インフラ開発、デジタル化、気候変動対策

- しかし、インフラ開発予算は5.5%減

- 首都移転予算は65%減(15兆ルピア)

- 優先政策の大半は**社会政策・再分配政策**

- 無料栄養食プログラム(71兆ルピア)
- 無料健康診断プログラム(3.2兆ルピア)
- 学校施設のリノベーション(20兆ルピア)
- 年間300万戸住宅建設など

■ 広義の安全保障政策の重視

- 兵器の近代化と国防力強化→国防・治安予算12.2%増(372.3兆ルピア)
- 食料安全保障関連21.9%増(139.4兆ルピア)→フード・エステート開発(15兆ルピア)
- エネルギー安全保障

■ プラボウォ式政治運営のかたち

- 軍隊式、トップダウン型、集権的な政治運営
- ジョコウィが“中小企業社長”タイプだったとすれば、プラボウォは“軍司令官”タイプか
- 規律のとれた一体的な政府による高い実行力が実現できるか？
- 社会政策・再配分政策、食料自給政策は利権政治の温床
- 批判、意見の相違に対する寛容性が低下
- 密室政治・談合政治→予測可能性の低下

■ 国民の高い期待のなかの船出

- 好印象：プラボウォ84.1%、ギブラン71.1% (*Kompas*, 19 Oct. 2024)
- 期待：85.3% (*Indikator*, 27 Oct 2024)

参考文献

- 川村晃一編『新興民主主義大国インドネシア——ユドヨノ政権の10年とジョコウィ大統領の誕生——』アジア経済研究所、2015年
- 川村晃一編『2019年インドネシアの選挙——深まる社会の分断とジョコウィの再選——』アジア経済研究所、2020年
- 川村晃一「なぜプラボウォは圧勝できたのか？——2024年大統領選挙を開票速報から分析する」『IDEスクエア』2024年3月
- 川村晃一「《経済教室》大統領選後のインドネシア 経済開発・民主政治 両立カギ」『日本経済新聞』2024年3月5日
- 川村晃一「ジョコ・インドネシア大統領が狙う「一族支配」、布石は着々でも存在する高いハードル」『Foresight(フォーサイト)』2024年4月3日
- 川村晃一「BRICSには加盟せず、OECDへの加盟を目指すインドネシア外交のしたたかさ——「自主・積極外交」のレガシー」『IDEスクエア』2024年5月7日
- 川村晃一「プラボウォ新政権の下でインドネシアの民主主義はどうなるのか？——政権移行期の法案改正の動きと「民主主義の後退」」『IDEスクエア』2024年9月
- 川村晃一「連載ジョコウィからプラボウォへ：政権移行期のインドネシア第1回 新政権発足前の動きから見えてくるプラボウォ政治の姿」『月刊インドネシア』2024年10月号
- 川村晃一「連載ジョコウィからプラボウォへ：政権移行期のインドネシア第2回 2025年度国家予算からプラボウォ新政権の政策の方向性を考える」『月刊インドネシア』2024年11月号(近刊)
- アジア経済研究所ウェブサイト特集ページ「[2024年インドネシアの選挙](#)」